

豊川市議会傍聴記

①

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

◆子供の貧困

早川喬俊氏(とよかわ未来)は児童生徒の貧困の状況と学習支援について質問した。

福祉部長は生活保護家庭のうち102世帯に18歳未満の子どもは196人いる現状から、貧困の連鎖の解消のため学習支援事業をなるべく早く実施していくと答えた。

早川氏は「子どもの貧困対策のために

は子どもの貧困の実態を把握する必要があり、その必要性を説き、家庭、地域、学

校の連携協力や地域未来塾の取り組みを要請した。

子どもや高齢者の貧困対策は急務

で実施しているが、限られた業者でしか施工できない場合の工事、建設コンサルタント業務、庁舎清掃、及び警備、樹木管理、草刈りなどの委託業務、施設や整備の修繕、物品

公共性の確保に努めるために現状に留まらず改革に取り組むべきだと主張した。

◆国民健康保険

安間寛子氏(共産)は国民健康保険料引き下

0円、39万5700円、46万7100円となり、負担割合は11・68%、13・19%、15・57%と高率となり高齢者の生活を圧迫しているとし、法定外繰り入れの増額などによる保険料負担の軽減を求めた。

高齢者の貧困と不安定な生活実態について質問したのは佐藤郁恵氏(共産)。

6月22日に公示を迎える参院選から、18歳選挙権が始まる。敏感な若い感性に日本の政治はどのように映り、各党はどのようにアプローチするのであるか。

購入はすべて指名競争で実施していることから、これを指名競争入札にしている理由や、指名業者の選定、予定価格の公表などについて確認し、入札の競争性、透明性、

◆公共事業の入札制度

倉橋英樹氏(一人公派)は豊川市では建設工事は原則、制限付一般競争入札

福祉部長は世帯総所得が300万円の1人世帯、2人世帯、または4人世帯の間保険料は35万50

国の住生活基本計画では高齢者が自立して暮らすことができれば、何よりも若い世代が見聞きする身近な地方議員の言動には、おのずから敏感になってくる。言葉と行動で地方議員の日常が問われていくことを肝に銘じたい。

◆高齢者の貧困対策

今後や、市営住宅の

公開抽選方式の変更などを指摘した。